

原子力発電所電源線における送電鉄塔近傍の 盛土の安定性評価結果報告について

平成24年2月17日
北陸電力株式会社

当社は、本日(2月17日)、原子力安全・保安院からの指示文書に基づき、原子力発電所電源線における送電鉄塔近傍の盛土について安定性評価を実施し、当該盛土が地震動に対して十分な安定性を有している旨を同院に報告しましたので、お知らせします。

平成23年4月7日の宮城県沖地震により、原子力発電所等において一時的に外部電源が喪失したことを踏まえ、当社は、4月15日、原子力安全・保安院から外部電源の信頼性確保に係る指示を受け、5月16日、原子力発電所の外部電源の信頼性確保に関する分析・評価及び対策を同院に報告し、6月7日、同院から当該報告について妥当であるとの評価を受けました。(平成23年4月18日、5月16日、6月8日お知らせ済み)

上記の報告書の中で、地震による送電鉄塔基礎の安定性等については問題がないことを報告済ですが、今回の東北地方太平洋沖地震を踏まえ、原子力発電所電源線における送電鉄塔近傍の盛土について安定性評価を実施しました。その結果、当該盛土が地震動に対して十分な安定性を有していることが確認されたため、本日、同院に報告しました。

当社は、引き続き、志賀原子力発電所の安全強化策を確実に実施するとともに、今後とも新たな知見が得られた場合は迅速かつ的確に対策を追加し、志賀原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

以上

添付資料：送電鉄塔近傍の盛土の安定性評価について

原子力安全・保安院からの指示文書
原子力発電所の外部電源の信頼性確保について(指示)(平成23・04・15原院第3号)

送電鉄塔近傍の盛土の安定性評価について

1. 送電鉄塔近傍の盛土の抽出・評価

抽出した盛土	評価
志賀原子力線 23 号鉄塔 周辺の能登有料道路の 道路造成による盛土	当該盛土は、高さ 23mではあるが、鉄塔から 116mの距離がある。また谷埋めの盛土であり、仮に崩壊したとしても鉄塔南側の谷地形に沿って崩壊することから、当該鉄塔への土砂流入はない。
志賀中能登線 1 号鉄塔 および赤住線 15 号鉄塔 周辺の志賀原子力発電 所構内の建設当時に排 出された残土処理によ る盛土	当該盛土は、高さ 11.8mではあるが、鉄塔に 5mと近接しており、万が一崩壊した場合、影響を及ぼすおそれがあることから、念のため <u>安定性評価を実施</u> 。

2. 安定性評価の結果

- ・当該盛土については、志賀原子力発電所 2 号機建設に伴い排土されたもので、平成 13 年の施工完了後、約 10 年が経過しているが、これまで発生した大きい地震動に対しても変調は見られていない。
- ・土木分野で一般的に用いられている「道路土工 盛土工指針（（社）日本道路協会平成 22 年 4 月）」に基づき、種地盤¹におけるレベル 2 地震動²にて安定性評価を実施した結果、当該盛土が地震動に対して十分な安定性を有していることを確認。

対象盛土	地震時安全率	評価基準値
志賀中能登線 1 号鉄塔および赤住線 15 号鉄塔周辺の盛土	1.97	1.0

- 1 種地盤：種は良好な洪積地盤及び岩盤、種は沖積地盤のうち軟弱地盤、種は種及び種のいずれにも属さない洪積及び沖積地盤
- 2 レベル 2 地震動：供用期間中に発生する確率は低いが大きな強度を持つ地震動

